

「応援します!! あなたの農業」

地域農業の
未来を応援します!

福島県
農地中間管理機構



あぐりサポートニュース

福島県農業振興公社だより

第 55号 平成30年3月

発行元 福島市中町8番2号
公益財団法人福島県農業振興公社
TEL 024-521-9834 FAX 024-521-8277

農地中間管理事業推進会議を開催



福島大学 生源寺教授の基調講演(郡山市中央公民館)

12月7日(木)、郡山市中央公民館において、県内から関係者190名が出席し、平成29年度福島県農地中間管理事業推進会議を開催しました。

午前の部は、市町村等の実務担当者を対象とした研修会として、土地改良法の改正により創設される農地中間管理機構関連農地整備事業や来年度に向けた業務委託契約及び重点地区指定の進め方等について、県担当課と公社より説明を行いました。

午後の部では、基調講演として、福島大学教授で同大学農学系教育研究組織設置準備室長の生源寺眞一先生、また、農業経営者間の農地利用権交換運動に関する情報提供として、全国農業会議所の砂田嘉彦農政・担い手対策部長及び県農業会議

の鈴木正洋担い手・経営対策部長にそれぞれお話をいただきました。

生源寺先生からは、「土地利用型農業の展望と農地制度」と題し、日本の農業の構造、課題等について様々な視点からお話をいただきました。講演では、合理的な土地利用の実現には、「市場の機能」に任せた単純な取引だけでなく、その基礎となる「地域の調整機能」が不可欠であること等、事業を活用する上で常に念頭に置かなければならないことを改めて確認することができました。

当公社では、農業者の皆様をはじめ、多くの関係機関・団体の皆様にご参加いただいた今回の会議を踏まえ、本事業の一層の推進に努めてまいります。

転貸面積は前年7割増へ

～平成29年度農地中間管理事業の実績見込み～

平成29年度農地中間管理事業の転貸実績は3月15日の県認可公告で確定しますが、その見込み面積は表のとおりとなっております。平成29年度の転貸実績は、前年度を約7割上回る2,442haを見込んでおり、過去最高だった平成27年度に次ぐ実績となる見通しです。改めて関係機関・団体のご協力に感謝申し上げます。

今後、転貸内容の詳細を分析し、事業評価委員会による評価を受け、平成30年6月末までにその内容を公表いたします。

農地中間管理事業の転貸実績見込み

| 平成29年度 (A) (見込) | 参 考 | |
|--------------------|--------------------|--------------------|
| | 平成28年度 (B) (実績) | 平成27年度 (C) (実績) |
| 2,442ha | 1,428ha | 2,576ha |
| | A/B 171% | A/C 95% |

担い手向けコミュニティサイトを開設します

福島県農地中間管理機構では、担い手同士の情報交換や機構からの情報提供を行い、農用地の利用集積・集約化のさらなる促進を目的に、担い手が自由に交流できるコミュニティサイトを開設します。サイト会員の対象は、平成28年11月に機構が連携協定を締結した6つの担い手農業者組織の会員となります。

コミュニティサイトのメニューは、①借入農地の交換情報②ビジネスパートナー情報③公社からのお知らせ④公社への質問・相談⑤自由掲示板の5つの項目で構成することとし、①及び②の内容は次のとおりです。

①「借入農地の交換情報」では、分散錯ほの状態となっている担い手に対し、団地化を進めるために、お互いの耕作地を交換する情報交

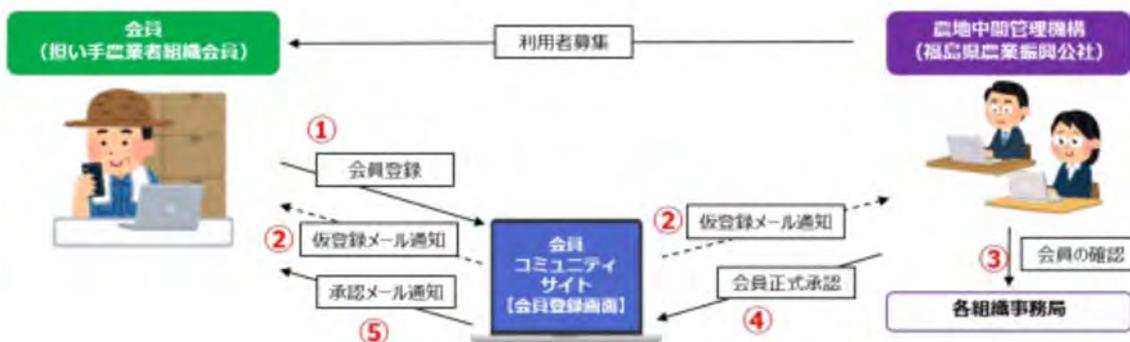
流の場を提供いたします。

②「ビジネスパートナー情報」では、量販店との取引などで納入量や納入期限が担い手個人に限界があった場合や共同出荷の依頼など、取引に対応できる担い手を募集する場を提供いたします。

上記2項目に併せ、「自由掲示板」では、農機具の売買や作物の栽培手法など自由に交流していただく場を設けております。

今後の予定としては、3月中旬以降にサイトを開設し、併せて担い手農業者組織事務局を通じて、サイトの利用者募集の案内を送付します。サイト内容やご不明な点、ご意見等がございましたらお気軽にご相談ください。

■利用イメージ



いわきの中村彰宏さんと根本大我さん、東北大会へ出場！

～平成29年度「福島県農村青年会議」を開催～

福島県農業青年クラブ連絡協議会と県と当公社の主催による「福島県農村青年会議」が、2月2日(金)に三春町の県環境創造センターで開催されました。この会議は、農業青年などが一堂に会し、農業経営やクラブ活動の課題解決のために取り組んだ「プロジェクト発表」や日ごろの農業経営や地域活動を通して感じたことを発表する「意見発表」を行うことにより、本県農業・農村の復興と将来を担う農業青年の資質向上を目的としたものです。当日は73名が参加し、「プロジェクト発表」は4名の農業青年が、「意見発表」は4名の農業青年と1名の農業短期大学の学生がそれぞれ発表しました。また、県環境保全農業課の担当者を招いて、本県のGAP認証取得に向けた取組についての研修も行いました。

「プロジェクト発表」では、いわき農業青年クラブ連絡協議会の中村彰宏さんが「六次産業化による原木椎茸栽培の収益性向上への取り組み」と題して発表し、最優秀賞(県知事賞)を受賞しました。中村さんの農園では原木椎茸栽培の収益性



意見発表をする根本大我さん

それぞれの面から課題解決のための取組を行った結果を発表しました。特に、加工面では六次化商品を開発し、収益性向上に向け、分析をしていたことが高く評価されました。「意見発表」では、いわき農業青年クラブ連絡協議会の根本大我さんが「The Pear of Dream」と題し、ナシの輸出を中心とした、農業に対する熱い思いを発表し、優秀賞(公社理事長賞)を受賞しました。

それぞれの賞を受賞されたお二人は、今年の11月に宮城県で開催される東北大会に本県代表として出場します。

なお、その他の受賞者は次のとおりです。

- 「プロジェクト発表」
- ◇ 優秀賞(公社理事長賞)
福島市農業後継者連絡協議会 水野圭悟
 - ◇ 優秀賞(農業青年クラブ連絡協議会長賞)
D”ATCH(安達地方農業青年クラブ)
武藤政寛

- 「意見発表」
- ◇ 優秀賞(農業青年クラブ連絡協議会長賞)
須賀川4Hクラブ 森 隆義



知事賞を受賞した中村彰宏さん

向上が課題となっており、栽培、販売、加工のそ

— 地域マネージャー便り —

福島県農地中間管理機構
郡山推進拠点

地域マネージャー くりき てるお
栗城 照雄



郡山市をエリアに農地中間管理機構の地域マネージャーとして、県中農林事務所農業振興普及部に駐在しています。

農地中間管理事業の推進を主に、担い手への農地集積、「人・農地プラン」の作成支援など、農業振興普及部、郡山市、JA福島さくらの担当者の協力を得て活動し、満3年になりました。

この間、「人・農地プラン」の説明会や、訪問した担い手の方々の話を聞くと、県内どこの地域においても同様だと思いますが、高齢化、後継者不足、担い手不足について話題になります。また、規模拡大に伴い農業施設や農機具を大型化する資金も必要になるため、担い手へ補助等のメリットが必要との声が多数あるのも事実です。

そうした中、地域の農地をどう守るかの話し合いを勧め、担い手への規模拡大、集積・集約と耕作を依頼したい農家のお手伝いをするのが、我々地域マネージャーです。

どうぞ、お気軽に声をかけてください。

農業の“バトンタッチ”が急務に！

白河市 榑吉野家ファーム福島
専務取締役 滝田 国男さん (61歳)
たきた くにお

2013年（平成25年）10月、広大な農地面積を有する福島県に生産拠点を求めて会社を設立。業務用の米と野菜類（キャベツ・白菜・玉ねぎ・葉ネギ・長ネギ）を栽培し、本社HD東京工場へ出荷する。

その作付地は当初計画で、1年目水田150a・畑180aであった。農地を容易に借りられないと踏んだ本社の考えでもあった。フタを開けると何と水田が250a、畑が350aと倍の農地が借りられた。ありがたい結果に栽培意欲は盛り上がり、社員雇用も当初計画では5人で見ていたが、倍の10人を雇用しての栽培スタートとなった。

社員はというと、20代から60代まで幅広い年齢構成で、農業の経験の無い人がほとんどだった。無垢な人たちだから染まるのには時間は要さず、種苗メーカーや地域の達人さんから栽培のヒントやコツを学び、即実行して自分のモノにし、大きな作付面積に真正面からチャレンジしていった。

その後も、栽培品目は変わらないが、工場への出荷量は年々増加。その要請に応えるため借地面積の拡大が必要となった。

そんな折、農地の賃貸借に「農地中間管理機構」の存在を知り利用を始めた。

2015年（平成27年）11月にエントリーの申込を



して、農家からの借入を受ける体制をつくり、翌春の作付時期までに水田528a借り受けたのを皮切りに、2016年（平成28年）374a、2017年（平成29年）569a。合計2,487a（24.9ha）で水稻の作付けを行っている。

「高齢者農業」と云われて久しいが、ここ数年顕著にその方々のリタイヤが起きている。更にその予備軍ともいえる専業農家（水田受託農家）が数多く存在している。健康面での不安は当然、機械の更新が重複すれば、リタイヤの進行は一層拍車をかけるでしょう。

組織型農業（企業型ともいえるかも）として、農産物の生産を止めること無く進まない、日本人の胃袋を守れなくなる日が来ては一大事どころではない。この冬の「野菜価格の高騰」は、自然現象での影響ではあるが、消費者はほとんど困ったことでしょう。こんな現象が生産者不足から来たとしたら、想像を絶することになるでしょう。平成5年の冷害の時の輸入米騒動を思い出すのは、私だけではないでしょう。

本格的に“バトンタッチ”出来る環境を整える時期がすぐそこまで来ている。

そんなことを危惧する一農業者です。

編集後記

最近読んだ雑誌によると、ここ数年で1日の平均睡眠時間が短くなっているそうです。平均睡眠時間が6時間未満の人が39.5%で、平成17年に比べて4.8ポイントも増加しています。6時間未満の人のうち、「日中、眠気を感じた」と回答した人に「睡眠の確保の妨げになっていること」について聞くと、男性では「仕事」「健康状態」、女性では「家事」「仕事」の順で多くなっています。睡眠の妨げになっていることが解消されれば、睡眠時間が増や

せるかもしれません。よい睡眠は生活習慣病予防につながるといわれておりますので、健康のために、睡眠について見直してみたいかがでしょうか。（村松清一郎）

お問い合わせ

あて先 〒960-8681

福島市中町8番2号 福島県自治会館8階
公益財団法人福島県農業振興公社 総務課
TEL 024(521)9834 FAX 024(521)8277
URL <http://www.fnk.or.jp>